11．徳島大学3地区の避難所研修会を終えて

常三島地区の避難所研修会には、200名を超える近隣住民の方にご参加いただき、当初の講演会会場を急遽変更して対応する等混乱も生じたが、津波浸水高さ 2m～3mと発表されている地域故、関心が非常に高いことの現れと感じ取れました。

常三島地区と新蔵地区には、徳島市から津波一時避難ビルとして指定された施設があるが、蔵本地区では、津波浸水高さが 30cm未満であることから一般災害時の避難所指定となっており、市立の小中学校の避難所収容人員を超える場合に大学に開設要請がされる位置づけであるため、特に近隣住民の方からは直ちに開設してもらいたいとの要望をいただきました。

アンケート結果を整理すると、大学の避難所施設についての問いに「建物は知っていたが入り口の鍵の仕組みは知らなかった」57%、「今まで建物がどこにあるか知らなかった」32%、「建物も鍵の所在・仕組みも知っていた」は 11%であった。アンケートの自由記述欄でも、「建物・鍵の所在・仕組みが分かって大変参考になった」という意見が多くみられました。

非常食の試食では、災害直後においてはお湯等の準備を必要としないものが有効であることも実感できました。

実際に参加された住民で車イスの方や階段を上れない方が何名かおられました。お話を聞くと「近所に住んでいるので、この機会に避難所を是非見ておきたい」とのことであったが、避難所として使う建物ならば、災害が発生した場合そのような方が沢山来られることを前提に建物の設計も考えておく必要性を痛感しました。

参加者の中には、「これなら近所の方も連れて来ればよかった。」「また研修会をやってほしい。」等の声や、後日避難所を見に来る方もいました。
今回は最も必要性が高く取り組み易い「避難所所在と鍵の確認」を取り上げたが、次回以降の開催を計画する際には、次に何をテーマに据えるべきか検討して取り組みたいと考えています。

徳島大学総務部総務課　災害対策アドバイザー　粕淵義郎